



第8回 モロッコ王国



アウザー・アブドゥラさん



埼玉県にゆかりがあり、現在県内や海外で活躍している方に出身国や現在暮らしている国の紹介をしていただくシリーズ「世界の国からこんにちは」。今回は、ドイツ、モロッコ、フランスでパティシエや調理専門学校の先生として活躍され、1998年の来日後もフランス菓子の調理やフランス語、英語を教えられているアウザー・アブドゥラさんに、出身国である「モロッコ王国」について、紹介していただきました。

「モロッコ王国」は、どこにある？

北アフリカの西側に位置する「モロッコ王国」は、北は地中海、西は太平洋に面し、南と東にはサハラ砂漠が広がっています。アフリカの中で一番ヨーロッパに近く、スペインとは地中海を挟み14Kmしか離れていません。沖縄と台湾の中間地点と同じくらいの緯度で、四季があり、一年通して爽やかな気候です。夏の暑い時期には気温は45℃くらいまで上がりますが、湿気が少なくカラッとしているので、日本の湿度の高い夏に比べて過ごしやすいです。その昔、モロッコに元々住んでいたのはベルベル人ですが、中東からアラブ人が入ってきて、イスラム文化が浸透し、8世紀にはスペインに侵攻したことで、スペイン文化も取り入れ、文化を融合させました。その後、アラブ人のイドリースI世がベルベル人の支持を得て、王様となりました。その歴史からもわかるように、アフリカ、イスラム、ヨーロッパが融合したモザイクの国です。その多様性のある国モロッコは外国からの旅行者にとっても人気があります。テロもほとんどなく、治安のよい国です。



タイルの柄が独特

「モロッコのお茶」って？

モロッコは農業が盛んな国で、野菜は輸入に一切頼らず、多くの野菜を輸出しています。野菜、牛肉、鶏肉、羊肉、魚、おいしいものがたくさんあります。料理もアフリカ、ヨーロッパ、イスラムの良いところが融合していて、観光客にもモロッコ料理は人気です。日本でも有名なのは、クスクス、タジン鍋です。そして、モロッコの人々が大好きな飲み物は「モロッコのお茶（ミントティー）」です。このお茶は、乾燥した茶葉（中国から輸入される緑茶）、砂糖、ミント、お湯で作ります。どこの家庭にも、この材料が常備され、毎日たくさん飲みます。私は日本でも毎日飲んでいました。砂糖は1kg、2kg単位の塊で売っており、必要な分をカットして使います。多くの家庭にはミントが植えられ、ミントを育てるスペースのない人は市場でも安くミントを購入できるので、どこの家庭でもミントがきれることはありません。



モロッコのお茶

イミルシルの結婚

ベルベル人の独特な結婚の方法を現在でも行っている地域がイミルシルです。そこでは、年に1回、結婚適齢期の男女が集まり、相手を決めるという結婚の方法がとられています。その日、結婚適齢期の女性は民族衣装に身を包み、アクセサリーを身に着け結婚適齢期の男性達の前に並びます。その時、女性は顔を隠しています。男性たちはそれぞれ気に入った女性を選び、結婚します。男性と女性は近くの同じ地域に住んでいるので、農作業のときなどにお互いを見知っているケースが多いので、このときが初対面ということはありません。

モロッコの服装、人々

男性はジャラバを着て、バブシュ（くつ）を履きます。女性はカフタンや女性用ジャラバを着ます。カフタン、ジャラバには冠婚葬祭用のフォーマルのものから、仕事着まで様々な種類があります。女性はズボンをはくことはなく、カフタンとスカートで過ごします。また、夏用と冬用があり、季節により着用します。男性用ジャラバにはフードが付いていて、暑い季節の日よけにもなります。ジャラバは長袖で足首まで丈があるので暑そうに見えますが、風通しがよく締め付けがないので、モロッコの気候に最適な衣装です。モロッコの人々はやさしい人が多く、夫婦、家族で助け合って生活しています。女性は家事、育児を担当し、男性が外で働き、生活をしています。現在も老人ホームなどはなく、歳をとっても家族とともに生活することが一般的です。



モロッコの一般的な結婚式の衣装



イミルシルの花嫁

アウザーさんには、世界のさまざまな国を巡る「モロッコ料理」をご紹介します！

国際フェア2017 ご来場ありがとうございました！



11月5日、恒例の「国際フェア2017」をさいたまスーパーアリーナで開催しました。今年もコープみらいフェスタほか、4イベントの共催で約4万5千人の皆さまにご来場いただきました。国際フェアエリアでは、たくさんの方が38の出展団体の活動紹介を見たり、バザーや各国の料理を楽しんだりしていました。また、ステージでも民族舞踊や演奏に大きな拍手をいただきました。国際フェアは埼玉県内のNGO・NPOと日頃お付き合いのない方にも活動を知っていただく大きな機会です。今後も来場者と出展者の皆さまのよい出会いの場となるような「しかけ」を考えていきたいと思っています。

協会設立30周年記念事業 「730万人の国際理解プロジェクト」 国際理解講演会 開催報告



9月17日（日）、大宮ソニックシティ 小ホールにて、IT企業役員・お笑い芸人の厚切りジェイソンさんをお呼びし、国際理解講演会を行いました。当日は、台風の影響も心配されましたが、たくさんの方が足を運んでくださいました。独学で日本語を習得され、日本でテレビ・ラジオ・CMなど幅広く活躍されているジェイソンさん。「日本の皆さんに伝えたい48のWHY?」と題し、ご出身国のアメリカと現在ご家族とともに生活をしている日本について、学校教育・就職・仕事を含め、生活する上での日米の考え方の違いなどを話していただきました。最後は客席からご質問を頂戴し、「なぜ日本で芸人になったのか」、「来日してからのご自身の感動体験」などの質問に、丁寧に回答してくださいました。日本人として良い点悪い点を改めて感じることができ、国際理解のヒントを得られる素晴らしい講演会となりました！！

また、講演に先立ち行った民族衣装ファッションショーでは、当協会が所蔵する約140着の世界の民族衣装の中から厳選した30着を、28名の学生モデルさん達が身に纏い登場しました。どのモデルさんたちも、衣装の魅力をいきいきとアピール！終始会場の皆様から温かい拍手をいただくことができました！留学先の国の自前民族衣装を披露してくれた学生さん、日本に来日したばかりのメキシコ人留学生なども参加してくださり、色とりどり華やかで、国際色豊かなショーになりました！！

